

# ♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2017年7月 ♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

こんにちは！6月のギフト券+3キャンペーン期間中には多くのお客様にご利用頂きまして、誠にありがとうございました！7月も34公演ご用意して、お待ちしております♪これから夏本番ですが、涼しい宗次ホールで良い音楽と素敵なひと時を過ごしませんか？♪

【文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子(ひろた まさこ)】

今年3月にリリースしたCDが  
「レコード芸術」誌 5月号で“特選盤”に選出！

我々に、新しい認識を切り開く可能性を与えてくれる。  
それほどにも、充実した美しい音である

(平野篤司/成城大学教授)

イリーナ・メジューエワ ピアノ

7月22日(土)18:00開演 4,000円(学生2,400円) [指定]



去年の宗次ホール公演ではショパンのノクターン全曲を丁寧に完奏し、長く印象的な物語を紡いでくれたメジューエワさん。今回は「ドイツ・ロマン主義」をテーマとした前半と、純粋な「ピアノズム」を表現した後半とで、バラエティ豊かなプログラムです。

あまり演奏されないことのないロシアの作曲家、ニコライ・メトネル(1880-1951)

の作品も含まれていますが、この“ロシアのショパン”と称される作曲家をメジューエワさんは以前より大変好きだったそうで、彼の作品に取り組むことは正に彼女の“ライフワーク”だと仰います。

「メトネル作品一般について言うと、彼の作品テーマはかなりシンプルなのですが、展開の仕方が独特。ひとつの素材を徹底的に展開させるという面は古典的というか、ドイツ的です。ベートーヴェンに近いかもしれません。」シンプル素材を使って巨大な建築を作り上げるといった趣は、その独特の世界にはまってしまうと抜けだせなくなる魅力があると言います。

この日演奏されるメトネル「忘れられた調べ」からの“プリマヴェーラ(春)”は1920年の3月に作曲され、ロシアの厳しい冬から突然雪が解け、清々しいほどの春の到来と新しい芽吹きが表現されている、非常に美しい曲です。メトネルは、ロシアに訪れる春の到来の季節を心から愛していたそうで、ハープのグリッサンドを思わせるような壮麗な響きや豊かな和音が印象的です。生で聴く機会も少なく、録音もあまり残されてはいませんが、メジューエワさんはこのメトネルの作品をCD収録されており、大変高い評価を得ていらっしゃいます。

ところでメジューエワさんが「影響を受けたピアニスト

は？」という質問に対して20世紀最大のピアニスト、リヒテルを挙げていらっしゃるんですが、その理由について「ここ数十年流行っているスマートな耳に心地よい演奏とは大分違って、もっとゴツゴツしたものがありますよね。そういう意味では、私自身リヒテルのように弾きたいという願いを強く持っています。演奏スタイルが古いとか新しいとかに関しては、あまり意味がないんじゃないでしょうか。音楽的かどうかが一番重要だと思います」述べていらっしゃいます。そして「私自身独特の世界を持つ演奏家ではありたいと思っていますが、とてもとてもこういう巨匠に迫ろうなんて恐れ多くて…」と付け加える、とても謙虚なメジューエワさんです。

「過去の巨匠達の演奏には様式概念云々を超えた力があります。彼らの魅力的な個性を私は尊敬しています。真似なんてとても不可能。ただ私自身は、作品の様式については尊重しなければならないというも思っています。そうせずして、自分の理想とする感動的な演奏にはならないと思っているからです。作品の様式を踏まえながら個性的な演奏ができれば一番。そういう意味では、やるべき勉強があまりにたくさんあって、それこそ一生勉強を続けたいといけません。」

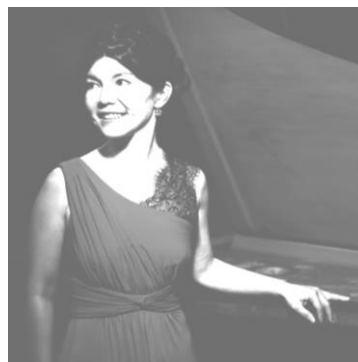
年々進化を続けるメジューエワさんが思いを込めて選んだ作品の数々、どうぞ生で聴いてください！

分析的で知的で、人並み外れた構築性をもつ演奏家なのだろうが、一方で、1曲ごとに驚くほど多彩なニュアンスをもたらすオにも恵まれていて、その『引き出し』の多さと、引き出しの使い方の的確さには熟練の名人を思わせるものがある

(飯森豊水 古楽情報誌「アントレ」より)

濱田 あや チェンバロ

7月23日(日)15:00開演 3,500円(学生2,100円) [指定]



名門ジュリアード音楽院修士課程に2009年新しく創設された古楽演奏科で100名もの応募者の中から選ばれた濱田さんは欧米で高い注目を集める、日本が誇るチェンバロ奏者。

国内でも「奥深い甘美な音色と憂いに満ちたアーティキュレーション(\*)が美しい。総じて鮮やかな指回りと明晰な解釈、疲れを知らないエネルギー。年齢を重ねたらどんな演奏をするようになるのだろう…」(那須田務 「レコード芸術」2015年6月号)などと絶賛される彼女ですが、元々幼い頃はピアノを弾いていたそうです。毎日何時間もピアノ一筋に練習していたそうですが、19歳のとき家族と訪れたプラハの“モーツァルト博物館”で運命の出会いが。

「レコード芸術」2015年6月号)などと絶賛される彼女ですが、元々幼い頃はピアノを弾いていたそうです。毎日何時間もピアノ一筋に練習していたそうですが、19歳のとき家族と訪れたプラハの“モーツァルト博物館”で運命の出会いが。

(\*)アーティキュレーション: 演奏技法における強弱やスラー、スタッカート等の表現

雪を踏みしめながら到着した、モーツァルトが『ドン・ジョヴァンニ』を書いた時に滞在したというゆかりの家には、悪天候の為他の観光客の姿はなく、濱田さんとお母さんのみ。モーツァルトの自筆譜や手紙が陳列される中、目についたのはモーツァルトが弾いたとされるチェンバロ。他には誰もおらず警備員の姿もない。「思わず、立ち入り禁止のロープの囲いをまたいで弾いてしまったんです」まるでバロック時代にタイムスリップしたかのような感覚、モーツァルトの楽器の音が今、自分の耳に届いているんだ…！これか！…という衝撃。当時の人達が楽しんだ音に出会ってしまったことで虜になり、旅行から戻るとすぐにチェンバロの先生を探し出し、レッスンに通い始めたそうです。

17世紀～18世紀に全盛を迎えたこのチェンバロは、豊かで大きな音を生み出す現代のピアノに比べ、音を出す仕組みも、必要とされるテクニックも全く異なります。「大きな違いは弦をハンマーで叩くのではなく、プレクトラムと呼ばれる小さな爪ではじいて音を出すところ。普通使われるチェンバロは音域が5オクターヴなのでピアノより幅がやや細いのですが、長い弦を使うため奥行きはチェンバロのほうがあります。さらに、ピアノにあるペダルがチェンバロにはないことも大きな特徴です。そのぶんピアノは腕や身体の重みをつかって弾きますが、チェンバロはすべて指先の軽いタッチで音をコントロールしなければいけないので真逆とも言えます。両立するのはとても難しいのです」とのこと。ぶらあぼ誌での「難曲が要求する技巧をひけらかすことなく、さらりと、しかし、説得力を持って弾くことで、その向こうにある歌心を浮き彫りにしている」(寺西肇氏の評)をはじめ、各誌で絶賛される濱田さんの貴重な来日公演、どうぞお聴き逃さないように!!



©井村重人

くになり、迫力が増している！」と共演した演奏家達からも評価されている彼、今回は今注目のピアニストであり作・編曲家としても活躍されている山中惇史さんとの共演です。

慶應義塾大学の法学部在学中にも桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースへ通学し続け、日本音楽コンクール(2012年)のベスト5へ入賞したのをきっかけにプロの演奏

家になることを決意し、翌年同コンクールへ再チャレンジ、見事全国第1位に栄冠に輝きます。

自ら望んで留学を決意し、テツラフ氏の扉を叩いたという大江さん、「繊細さと大胆さを兼ねそろえた師からは、アカデミックな分析力を学びつつ、最終的には“心から”ヴァイオリンを歌わせて奏でる大切さを教わっています。ドイツでは、音の大胆さ、そして迫力が全く違う！」とお話されます。将来が嘱望される若きヴァイオリニストによる期待の公演です！

ダン・タイ・ソン氏からレッスン中に受けた一言  
「君がどう弾きたいのかが伝わってこない」  
これで目が覚めました

(本人へのインタビューより)

8月1日(火) 實川 風 (じつかわ かおる) ピアノ



「こう弾きたい」というイメージが浮かんでいる作品は早く弾けるようになるけれど、それに対して憧れていてもどう弾いたら良いかすぐに掴めないのが、實川さんにとってのショパンの作品だそう。捉えられたと思って、いつまでも捉えきれない。だからこそ繰り返し弾いても飽きないし、演奏する度に自分の変化がわかるとも。試行錯誤を繰り返して、時間をかけて作品を消化したいと考えるそうです。

一方、一番好きな作曲家を挙げるとしたら、ベートーヴェン。「作品がプラスのエネルギーで満たされています。ネガティブなものを感じないのです。その分、演奏するときにはこちらも全てのエネルギーを注がないと、作品に対抗できません。」

今回は正に前半ベートーヴェン、後半ショパンという名曲づくしのプログラム。お得なスイーツタイムコンサートでたっぷりとお楽しみ下さい！

## お得なスイーツタイムコンサート！

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたい、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたい、という方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手まで、2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家達です。ご期待下さい！

ヴァイオリンの魅力を最大限に表現しつつも  
ヴァイオリンという楽器を超えて、音楽をしゃべる  
ように奏でられる音楽家になりたい

(本人へのインタビューより)

7月6日(木) 大江 馨(かおる) ヴァイオリン  
山中惇史 ピアノ

第4回宗次エンジェルヴァイオリンコンクールで第3位を受賞してからも数々のコンクールで1位に輝き、その後ドイツ・クロンベルクに音楽留学、かのクリスチャン・テツラフ氏の下で研鑽を積まれている大江さん。「以前の大江さんと比べると、演奏が一回りも二回りも大き

チケットのご予約・お問い合わせは  
宗次ホールチケットセンターへ

☎ 052-265-1718(10時～18時)